

1. 佐賀大学医学部 肝疾患医療支援学講座の活動について

佐賀大学医学部 肝疾患医療支援学講座の活動について

佐賀県では早くから肝がん対策を行ってきましたが、肝がん粗死亡率コースト1が続くため、さらに早急な対策を打つ必要がありました。そこで平成24年1月に佐賀県による寄附講座として肝疾患医療支援学講座を佐賀大学医学部に設置し、佐賀大学附属病院内に肝疾患センターを設立し、肝がんに対するより迅速で的確な取り組みを行っております。

肝疾患センターの主な役割は

- ① 佐賀県ウイルス性肝疾患データベースの構築・分析と地域への還元
- ② 佐賀県地域肝炎コーディネーターの養成およびスキルアップ研修
- ③ 肝疾患専門医療機関とかかりつけ医の連携を中心とした地域医療連携の推進

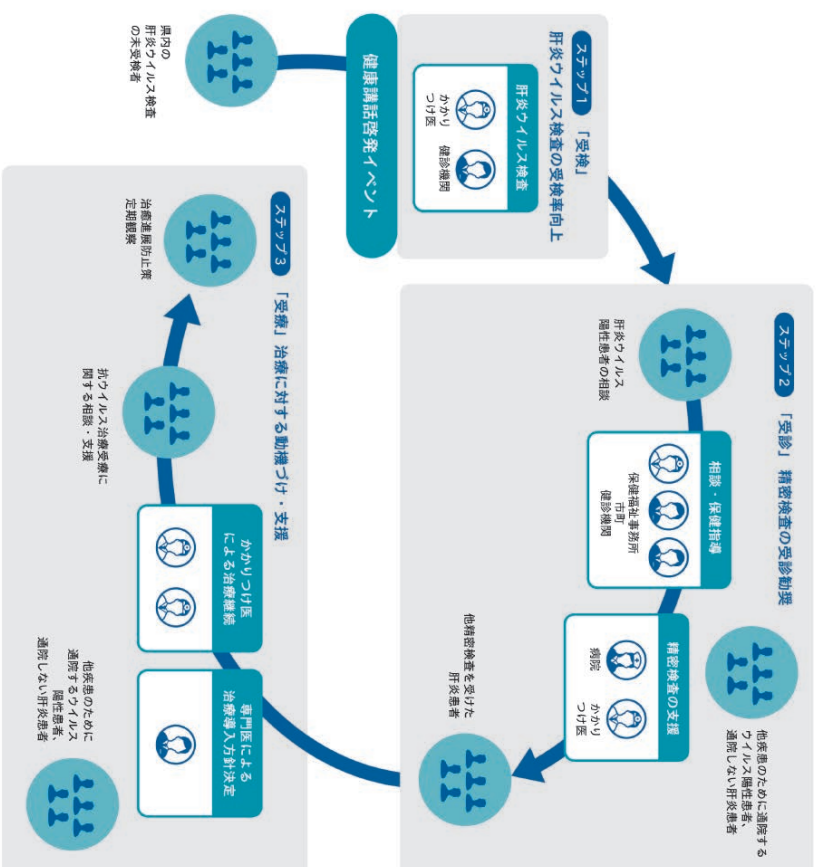
です。

佐賀県は、肝臓専門医が少ないという地域的事情もあり、従前から佐賀県医師会肝臓部会（現在は佐賀県肝癌対策医会に改組）と連携して肝疾患医療提供体制を構築してきました。すなわち、一定の講習会受講を要件とした部会を基盤として、かかりつけ医と専門医療機関との連携を図るものであります。

平成23年には、これを肝疾患診療連携拠点病院、肝疾患専門医療機関および協力医療機関に整理し、ウイルス検査や精密検査、肝炎治療費助成制度における役割を明確にしました。

平成24年には、佐賀県と協働で肝疾患診療における肝疾患連携エコシステムの図を作成しました。ウイルス性肝炎の診療において3つのステップ、すなわち「受検」「受診」「受療」のそれぞれの段階がどれも重要であり、どこで滞っても肝がんの死亡者を減らすことはできないと考えられます。肝疾患センターではこれらの3つのステップにおいて、スムーズに治療が進む促進要因や、歩留まりを起す阻害原因を明確にし、それぞれに対策を行っています。

図 1-1. 肝疾患診療における肝疾患連携エコシステム



現在までの大きな成果の一つとしては、全国に先駆けソーシャルワークケータリング手法を駆使し、一般市民の行動変容に作用する戦略的PRを行い、肝炎治療の促進に繋がっている事です。こうした中で、佐賀県の産官学協働による先進的な取り組みが認められ、平成26年度厚生労働省科学研究（肝炎等克服政策研究事業）「効率的な肝炎ウイルス検査陽性者フォローアップシステムの構築のための研究」において、佐賀分科会として、立ち上げました。現在、佐賀県で行ってきた取り組みは“佐賀方式”として全国で取り入れられています。

今後も佐賀県と協力して佐賀県の肝疾患に関する様々な課題に取り組み、県民への啓業のみならず、佐賀県で行われてきた県・市町や大学、各団体、県民が連携する産官学協働による肝がん対策をさらに進めていきます。